

## 平成 30 年度 体協ニュース

No.	30-⑫
行事名	青少年スポーツ指導者講習会 第2講座 『スポーツの楽しさを追求 ～スポーツを楽しむ為の引出し創り～』
講師	大木 翔陽 氏 サニーサイドスポーツクラブ代表
会場	板橋区立文化会館 4階大会議室
日時	平成30年9月6日(木) 午後6時30分～
主催	板橋区 運営：公益財団法人 板橋区体育協会



### 《大木 翔陽講師プロフィール》

1987年8月28日・生まれ

2000年 杉並第一小学校 卒業

2010年 浅草小学校 体育科 準常勤講師 就職

2011年 明星中学高等学校 体育科非常勤講師 就職

2012年 OHANA 復興支援団 設立

2014年 サニーサイドスポーツクラブ 設立

2015年 株式会社 R. I. T 設立

平成30年度「青少年スポーツ指導者講習会」の第2講座は、『スポーツの楽しさを追求～スポーツを楽しむ為の引出し創り～』というテーマで大木 翔陽氏を講師にお迎えし、開講されました。

時代の流れにより青少年の考え方や価値観が変化し多様化していることは多くの方々を感じ、指導歴の長い方こそ、その感じ方がより強いのではと思われまます。そういった青少年たちにスポーツの楽しさを伝え、その楽しいスポーツを通じて個々の成長を促していけるよう、これからの青少年スポーツ指導者にとっての大切なテーマに即した内容で、講義をして頂きました。

講義の前半は、時代の流れの中で指導者不足や体罰、家庭環境の変化等、様々な問題がスポーツにおいておきている中で、スポーツに打ち込み、子どもたちやいろいろな世代の方々に「指導者」として日々活躍されている皆さんに「どうやって勝つか」「どうやったら上手くなるか」よりも根本にある、スポーツに対して先ず「どうやって楽しむか」「どうやって子どもたちや指導している対象の方に楽しんでもらうか」を自身の経験をもとに話されました。

大木講師は、バレーボールという種目を続けてきました。スポーツとの出会いはその人によって様々ですが、講師は小学生のときにバレーボールという競技に出会いました。当初は、楽しく練習に参加しましたが、競技技術の向上のため厳しい指導を受けることもあり、楽しさは無くなっていったそうです。中学校では「好きで始めたバレーボールを好きなままにいなさい」という先生と出会い「楽しい」という感覚を思い出し、とても有意義に活動し、高校では「自分たちで考えなさい」と練習方法等を自分たちで考えながら競技に打ち込むことを経験されました。大学では学生主体で活動する体育会系の部活だったので、練習だけではなく組織としてどうやって動くかも学びました。

スポーツ指導の現場における指導者の悩みは多種多様あります。「勝てない」「上手にならない」「やる気を感じられない」等のスポーツ指導や現場には悩みや迷いが生じることが多々あります。

スポーツの原点は「遊び」から生まれていることが大半を占める中で、一つのスポーツにおいても考え方や価値観が指導者によって異なる場合があります。それと同時に、選手達の考え方や価値

観も異なります。その中で、指導者が何をどう伝えていくかが指導者たるものの最大の「テーマ」であり「ミッション」でもあり、「やり甲斐」となり、「悩み」でもあります。

次世代を担う選手達がスポーツを生涯スポーツとして捉え、「スポーツを楽しむ」ことこそが心技体の向上に繋がっていき、また、スポーツを通じた成長が社会の発展にも繋がっていく未来への原動力になるのではないかと考えておられます。

後半はグループをつくり、講師から出された課題に対して話し合い、グループごとに意見をまとめ、全体に発表しました。このときの各自が持っている価値観を一つにまとめて答えを出すという作業が、スポーツ指導に繋がっているのだということを学びました。

講師からの3つの課題は「あなたが勝負を通して伝えたいことは何ですか?」「スポーツ指導において楽しいと思う事は何ですか?」「指導者とは何ですか?」でした。機会がありましたら、いつも活動を共にされている方と話し合ってみてはいかがでしょうか?価値観を共有し合うことで、指導はひとりきりで行うのではなく、同じ価値観を持っている人と協力し合いながら進められることを、実感出来ることと思います。

大木講師から「好きで始めたスポーツを好きなままでいて欲しい」という言葉を「指導者」として伝えていきたいと教わりました。

(浅賀 公子記)



## 講習会風景



グループディスカッションと発表